

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071500930
法人名	株式会社 ゆうわ
事業所名	グループホーム ユウワ
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市出雲町1番地15 (電話) 0944-55-1117
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年6月22日

## 【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 14人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.3人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日当り1,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	73 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田共立病院、中友診療所、おおの歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部の高台に位置し、ホテルをリフォームした洋風の建物でホールや各部屋からは市内や有明海を眺めることができる。利用者や家族の方が「ゆうわ」でよかったと思ってもらえるよう理念の実践に向け努力している。地域のリサイクル活動や道路清掃・草取り等を通じて、日常生活における地域との連携をはぐくんでいる。利用者からは日々の生活の中で料理の味付け等学んだりしている。利用者、家族、地域それぞれにおいて支えあう関係を構築しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価では特に改善課題として挙がらなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	全職員に外部評価の意義や目的を伝えた上で、管理者は職員から意見を聴き集約して自己評価票を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	家族会代表、家族会OB、地区・校区公民館長、民生委員、市の長寿社会推進課職員、地域包括支援センター職員、あんしん介護相談員、ホーム職員の参加のもと2ヶ月に1回開催している。外部評価の結果やホームの行事案内、利用状況、活動の報告等を行っている。出た意見はサービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)	毎月の行事案内等を家族に送り、3ヶ月に1回はホーム便りを発行して送付している。家族の面会時には利用者の日々の生活の様子や健康状態を伝え、遠方の家族の方へは手紙で知らせている。小遣い帳の残金を確認してもらい、家族にサインをもらっている。職員の異動等については面会時に報告し外部評価の結果も報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	職員は地域のリサイクル活動、道路清掃及び草取りに参加している。ホームで行われる夏祭りやボランティアによる催し物の際には職員はチラシを作成し、地域住民へ配布したり近所のお店に貼ってもらうなど、地域活動や地元の人々と交流に努めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住みなれた地域の中でその人らしい暮らしの継続を目指し、ホーム理念「家族や地域との支えあいの中でその人らしく暮らしていただき『ゆうわ』でよかったと思われよう努めます」を、事業所独自につくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は、利用者や家族の方より「ゆうわ」でよかったと言って頂けるよう理念について話し合い、申し送り時や会議時に唱和し日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域のリサイクル活動、道路清掃及び草取りに参加している。ホームで行われる夏祭りやボランティアによる催し物の際には職員はチラシを作成し、地域住民へ配布したり近所のお店に貼ってもらうなど、地域活動や地元の人々と交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、全職員から意見を聴き集約している。外部評価の結果を家族へ手渡したり、郵送での報告を行うと共に、ホーム内掲示板にも掲示している。外部評価を受けることにより、サービスを客観的に確認をすることができており、質の向上に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、家族会OB、地区・校区公民館長、民生委員、市の長寿社会推進課職員、地域包括支援センター職員、あんしん介護相談員、ホーム職員の参加のもと2ヶ月に1回開催している。外部評価の結果やホームの行事案内、利用状況、活動の報告等を行っている。出た意見はサービスの向上に活かしている。	○	ホームのメンバーの一人でもある利用者も加わっての、運営推進会議を開催されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かあれば市役所へ出向いての相談や、電話での相談をしている。また、利用料を低額に設定しているため、市保護課からの問い合わせが多くある。月に2度あんしん介護相談員の訪問を受け相談内容に対してミーティングをしたり、市主催の勉強会への参加をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部研修参加後伝達講習を行い、必要に応じてホーム内での勉強会を開催できるよう準備している。現在この制度を利用されている方がおられる。今後必要とされる方へは説明、活用ができるよう支援できる体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の行事案内等を家族に送り、3ヶ月に1回はホーム便りを発行して送付している。家族の面会時には利用者の日々の生活の様子や健康状態を伝え、遠方の家族の方へは手紙で知らせている。小遣い帳の残金を確認してもらい、家族にサインをもらっている。職員の異動等については面会時に報告し外部評価の結果も報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族が参加する家族会を年に2回開催している。家族訪問時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めており、出た意見等はミーティングで検討し運営に反映できるよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を作るため基本的に異動は行われない。離職等で利用者の担当が変わる場合は、引継ぎ期間を十分作り、利用者の不安軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたり、年齢・性別等での制限はされていない。職員は希望した休みを取ることができ、個人の趣味や地域の公民館活動、自己研鑽として認知症の研修等への参加の際は勤務の調整も行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、利用者が日々の生活の中でその人らしい当たり前の生活ができるようにとの思いで人権を尊重し、特に言葉遣いに注意するよう職員に対し指導している。また、外部の人権研修会への参加も行われている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に対し外部での研修会開催の案内をして参加を促しており、参加費の負担や勤務調整を行って、働きながらスキルアップできるよう配慮している。また、研修へ参加した職員による伝達研修もなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修参加や会合などの機会に同業者との交流、相互訪問を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族には、一度訪問してもらい雰囲気を感してもらっている。また、事前に計画作成担当者による訪問も行っている。やむを得ず、すぐ利用となった場合は、家族の面会を増やしたりして安心して生活できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、料理の味付け、野菜の下ごしらえ、広告紙を使つてのくずかごの作り方等を教えてもらっている。職員は利用者から家の心配をもらったり、励ましてもらうなど共に支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わり合いの中での表情や会話から本人の意向をくみ取るように努めている。生活歴を本人や家族から聞き取り、経験や生活内容を把握するようにしている。職員は馴染みの関係があるからこそ分かることがあると感じている。耳の不自由な方とは身振りや手振りや筆談でその方の思いをくみとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日常生活の中や家族面会時に意向を聴き取るように心がけており、受持ち利用者の担当者会議には必ず出席している。また、課題の難しい利用者の中には自分らしく暮らせるよう受持ち担当者以外の職員も参加し話し合い介護計画を作成している。利用者の状態が常に把握できるように、日々の記録物が職員の見やすい場所に配置されている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度定期的に見直している。状態の変化が著しい利用者にはたとえ短期間であっても本人、家族、職員、医療関係者と話し合い介護計画を見直している。介護計画の変更があった場合は申し送りや連絡ノートで情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望があれば買物や医療機関への通院に付き添っている。家族が泊まれる設備が整っており遠方から来られる家族にとっても喜ばれて利用されている。地域との関係を大切にしており、地域の方からの相談に応じたり、居宅支援事業所を紹介することもある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他、利用前からのかかりつけ医での受診が出来るよう支援している。入居時に協力医療機関の説明を十分に行っており、本人や家族が納得した上でかかりつけ医を決めてもらっている。ホームは通院介助の他24時間対応の医療機関、訪問看護とも協力し適宜医療との連携を図っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定めており、本人、家族、主治医との話し合いを行い同意書をもらい看取りを行っている。利用者の状態変化の都度、主治医が家族と話し合いを繰り返し行っている。主治医の指導で看取りの勉強会を行いながら看取りを行った事例がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員が利用者にとどのように関わっているか、言葉掛けや言動を点検し、気が付けば直ぐに注意を促している。記録物などは第三者の目に触れないように保管し個人情報の取り扱いに十分配慮されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、本人の体調や希望を大切に、朝遅く起きられ方へも細かな支援をしたり、入浴後の疲労感が強いときは昼寝をするなど、その日の利用者の希望や体調に合わせて支援を行っている。思いを伝えることが出来ない方へは表情からくみ取り支援を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一括して厨房で作られているが、盛り付けや配膳、食後の片付けは利用者と職員が一緒に行っている。職員も利用者と一緒に同じテーブルで同じ物を会話を楽しみながら食事を行っており、食事の介助の必要な方には職員が傍らで介助を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から夕方まで入浴可能であり希望があれば夜間でも入浴できるように配慮している。入浴が嫌いな方にはタイミングを見て声掛けを行っている。温泉好きな利用者には近隣の温泉での入浴支援を行うこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は持っている力を発揮して、配膳、食材の皮むき、茶碗洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなどを自主的に手伝っている。ホーム内の一角で職員と一緒に野菜を育て収穫を楽しみにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に沿ってスーパーへ買物に付き添ったり、天気の良い日はホーム周辺の散歩に出かけている。定期的に利用者の希望で温泉に行ったり、昼食を食べにファミリーレストランに出かけたりして機会があれば外出をこころ掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の構造上1階は日曜祭日夜間のみ施錠されているが、内側から解錠できる。ホームは2階部分であるが夜のみ施錠をしている。日中、利用者は居室、玄関、エレベーターの利用ができ利用時は職員が支援できる自由な暮らしが出来るよう取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に2回消防署立会いの下に利用者や避難訓練を行っている。職員は避難経路、避難後の集合場所、消火器の使い方を熟知している。地域の方へは運営推進会議を通して避難訓練開催の案内をしている。ホーム内はスプリンクラーが設置されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録表に各利用者の食事量、水分摂取量が明確に記録されている。各利用者毎に水分摂取の目標値が設定されており職員はそれを目安に水分摂取を心掛けている。利用者の誕生日は好まれる食事を利用者と共に作り、楽しませている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには職員と利用者と一緒に作った季節感あふれる大きなカレンダーが掲示されており、その存在がフロアの和やかな空気を醸し出している。喫煙される利用者のために窓の傍に喫煙スペースがあり空気清浄機が設置されている。浴室からの眺望は市内が一望でき伸びやかで心地よい空間となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅から持参した馴染みの家具や仏壇が置かれ、思い思いの写真が飾られている。家族が畳を持ち込んでながら自宅の延長であるかのような部屋も見られた。また居室の入り口には職員と一緒に作った絞りの暖簾が掛けられ涼やかな雰囲気であった。</p>		